

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 こもれび		
○保護者評価実施期間	令和7年2月4日		～ 令和7年2月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年2月11日		～ 令和7年2月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月4日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<それぞれの利用児童に合わせた個別プログラム、集団プログラムをレベル・グループ分けして、発展させながら継続的に取り組む。>	各利用児童のアセスメントを丁寧に行い、日々職員間で情報共有をしPDCAサイクルが出来ている。職員同士が協力し合いながら集団プログラムを行っている。	インターネット等から楽しいプログラムやためになるプログラムについての情報を入手し、職員間で提案し合う。
2	<プログラム内容の充実> 5領域(①健康・生活 ②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性)に基づいた集団プログラム作成、公表している。	毎月職員間で話し合い、それぞれの職員の特技や強みを活かした多種多様なプログラムを考えている。1つのプログラムでも、利用児童の年齢や特性に応じてレベル/グループ分けをし、それぞれの利用児童が楽しめるように日々工夫をしている。1つのプログラムの中で、利用児童の様子を見ながら、発展させ、継続的に取り組むことで、それぞれの利用児童が、それぞれのペースで上達できるようにしている。	他の事業所・保育園・幼稚園等での取組みや、各障害特性に応じた有効な取組みについての情報を入手し、当事業所のプログラムの発展に活かしていく。
3	<きめ細やかな保護者対応が出来ている>	普段からメールや電話で、丁寧にタイムリーな対応を心掛けている。お困り事には、特に早く対応させて頂いている。	現状で十分と思われる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<保育園や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他、地域で他の子どもと活動する機会がない>	今年度は、報酬改定があり、BCPの作成、研修や訓練等が増えることとなり、日々の事務仕事と支援に追われている。知り合いでもなければ、児童発達支援に興味や理解を頂ける保育園や幼稚園との交流は難しい。	これから季節が良くなるので、近隣の公園へ遊びに行った時に、当事業所の利用児童と近い年齢の子ども達と遊ぶチャンスを狙ってみることから始めてみる。
2	<保護者同士の交流の機会を設ける>	今年度は、報酬改定の中で保護者にも把握して頂きたい内容をお伝えすべく、職員の紹介動画を流したり、ペアレントトレーニングとして小児専門歯科医師をお迎えして保護者会を開催することが出来た。それにも関わらず、自己評価で、充分評価されていなかったことが残念。開催日や多数の駐車場が併設された場所等、皆さんが満足する設定にすることは非常に難しい。	保護者の方に事前アンケートをし、より賛同頂ける日程や場所を選ぶこと。
3	<非常時の対応やマニュアルについて、保護者に周知しきれていない。>	契約時以外に、保護者に説明する機会がない。	保護者会で説明をする機会を設ける？ 果たして保護者が非常時の対応マニュアルに興味を持たれるだろうか？